

# あの夏の絵



福山啓子 = 作・演出

## 「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



「行きたい場所をどうぞ」(撮影：宿谷誠)



「きみはいくさに征ったけれど」  
(撮影：鈴木ヨシアキ)



「星をかすめる風」  
(撮影：宿谷誠)

## 青年劇場はこんな劇団です

青年劇場は、1964年秋田雨雀と土方与志に戦後教えをうけた俳優・演出家8名を中心に結成されました。年間2～3回東京での定例公演と、青少年のための公演活動、演劇鑑賞会などでの全国公演を行っています。

公演活動以外には、演劇部や演劇授業への講師派遣も行っています。創立当時より附属養成所を開設、現在は所属俳優の半数以上が附属養成

所の出身者です。

近年の上演作品は「星をかすめる風」(イ・ジョンミョン=原作 シライケイタ=脚本・演出)「行きたい場所をどうぞ」(瀬戸山美咲=作 大谷賢治郎=演出)など。全国公演としては「きみはいくさに征ったけれど」(大西弘記=作 関根信一=演出)があります。



文化庁

舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)  
独立行政法人 日本芸術文化振興会



秋田雨雀  
土方与志  
記念 青年劇場

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-9-20 関川ビル 4F  
TEL03-3352-6990 FAX03-3352-9418  
info@seinengekijo.co.jp  
<https://www.seinengekijo.co.jp/>



# あの夏の絵



撮影：宿谷誠

## あらすじ

被爆者を祖父母にもつ浅野恵は、広島市内の高校1年生。美術部顧問の岡田路子がもちこんだ「被爆証言を聞いて絵に描く」という取り組みにまよいながらも参加すること。東京からひっこしてきた工藤奈々、父が自衛官という飯島篤人も美術部員ということで、しぶしぶ一緒に被爆体験を聞くことになる。中学3年で、父親を探して入市被爆した白井勝利さんの証言に3人は心を突き動かされるが、ある日、奈々が学校に来なくなり…。

## 作・演出=福山啓子

美術 = 石井強司  
 照明 = 河崎浩  
 音響効果 = 石井隆  
 衣装 = 宮岡増枝  
 方言指導 = 蒔田祐子  
 演出助手 = 清原達之  
 舞台監督 = 松橋秀幸  
 製作 = 広瀬公乃

## キャスト



浅野恵  
傍島ひとみ



工藤奈々  
藤代梓



飯島篤人  
津曲海七斗



白井勝利  
広戸聡



浅野綾子  
藤井美恵子



岡田路子  
永田江里



ダヴィンチ先生  
星野勇二



ミケランジェロ  
松田光寿

## 作者から、みなさんへ

福山啓子

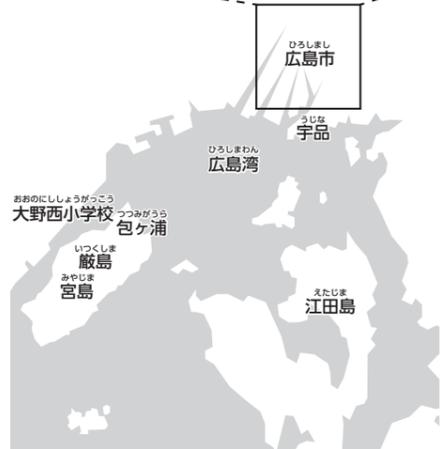
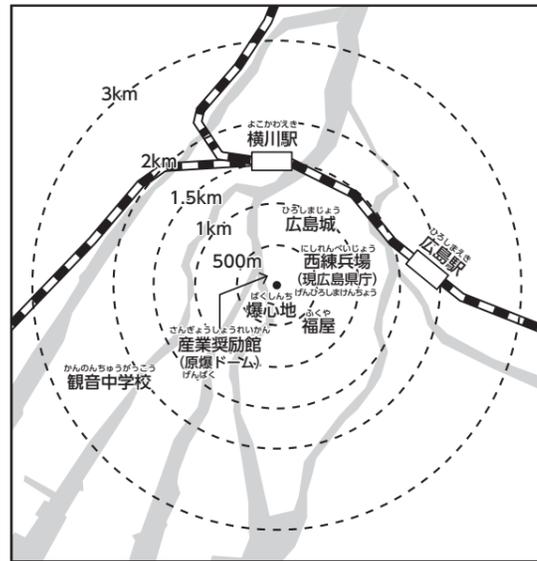
歴史や戦争のおはなしって、いわいな、とか、つまらないな、とか思いませんか？「もっと楽しいお話がいいー」はい。でも、ちょっと待って。今の少年マンガとか、戦争や人が殺される物語がいっぱい。それも、簡単に悪者がやっつけられる話ばかりではなく、何とたたかっているのかよくわからない、それだけにかえて「ワイお話」も。これは、マンガが今の世の中にある、戦争や、いじめや、貧しさや、いろんなことを鏡のように映しているからかもしれない。

「自分はどこからきて、どこへいくのか」を考える時、それはとても大切なこと。

お芝居を見て、どんなことを感じたか、おもしろかったこと、こわかったこと、わからなかったこと、つまらなかったこと、みんなでなんでも話し合ってください。

高校生が主人公だから、おもしろいところもたくさんあります！安心して。

今、世界のことを考える時、助けになるの



1945年8月6日午前8時15分、人類初の原子爆弾が広島に投下されました。約35万人の市民のうち1945年末までに約14万人の方が亡くなったといわれています。被害は熱線・爆風・放射線。爆弾が投下された後、15日目までに、爆心地からおおむね2km以内に入った人は、残留放射線などで被曝したと考えられ「入市被爆」とされています。

